

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大沼学園 東京幼稚園

1 本園の教育方針

- ・自主性を育てる
- ・創造性を高める
- ・身体的発達を助長する
- ・社会性を伸ばす

2 保育目標

年少

まず幼稚園という環境に慣れることと、基本的な生活習慣を身につけていくことが目標です。月齢差や家庭での生活経験、育った環境などによる個人差はありますが、園児の成長段階に合わせて言葉掛けや環境設定などの配慮をします。まだ自分では周囲にうまく言葉で伝えられない園児の心を読みとるように心がけています。

年中

「集団生活ができるこども」をテーマとして、楽しく園生活を送りながらお友達を作る環境を整えていきます。お友達との関わりは社会生活への第一歩です。無理に関わりを持たせようとはせず、お友達の様子を見たり、遊びの中で子供同士がお互いに興味を持てるようにしていきます。その中で他者の存在を意識し、受け入れることによりお互いに影響し合って自己を形成していきます。

年長

最終学年となる年長では、さらに集中力や体力の向上を目指していきます。小学校就学に向け、文字や数の概念を身につけるとともに、人の話を聞く、自分の意思をきちんと伝える、相手の気持ちを理解するなど、集団の中での関係を構築し、より周囲と積極的に関われるよう指導していきます。

3 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ・幼稚園教育要領に準拠した総合教育により、人間形成に必要な基礎をつちかい、豊かな感性とたくましく生きる子供の育成を目指す。
- ・とうきょうすくわくプログラムを利用し、探求活動を実施する。

4. 教育活動に対する学校評価

	自己評価		学校関係者評価	
評価項目	評価	取り組み状況	評価	意見
教育方針 や保育目 標	A	教育方針や保育目標・重点目標について、教職員間の共通理解を深め、実際の保育に沿わせていけるよう努力している。保護者アンケートでは、教育方針への理解について「あてはまる」59.8%・「ややあてはまる」30.4%と、約9割の保護者に周知できている。	A	・先生方の教育方針への理解が保育に表れており、引き続き保護者や外部関係者への周知活動を期待したい。
教育の質 と保育力 の向上	A	令和7年度もとうきょうすくわくプログラムを継続し、「自然環境に親しむ」「生き物に親しむ」「昔ながらの道具で食を体験しよう」の3テーマで探究活動を実施した。自然観察・移動動物園・LOVOT・餅つきなど体験型活動を通じ、子どもたちの好奇心や思いやりの心が育まれた。外部専門講師（英語・体育）による継続指導も行い、保護者アンケートでは好奇心・探究心を高める活動への肯定評価が約87%に達した。	A	・自然・生き物・食文化と多彩なテーマで探究活動を実施し、子どもたちに豊かな体験が提供されている。引き続き精力的な活動に期待したい。
環境の整備 及び安全 確保	A	日々の遊具の安全点検とメンテナンスを徹底した。芝生の張替えにより園庭環境を整備した。定期的な避難訓練・不審者対応訓練を実施し、保護者アンケートでは避難訓練・安全指導の肯定評価が約97%、感染症・アレルギー等への対応も約94%と高評価を得た。	A	・遊具の安全管理・防犯・防災の取り組みを引き続き徹底してほしい。芝生の張替えなど環境整備への積極的な姿勢を評価する。
保護者・ 地域との 連携	A	保護者との連絡を密にし、園児の理解に努めた。地域の保幼小連携合同研修会や連絡協議会へ積極的に参加し、小学校との交流を推進した。保護者アンケートでは地域・保護者との連携について肯定	A	・保護者・小学校・近隣との連携を今後も密にし、積極的に取り組んでほしい。保護者アンケートの結果を踏まえた改善も期待したい。

		評価が約 84%であった一方、さらなる充実が求められる項目でもある。		
--	--	------------------------------------	--	--

(A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった)

5 総合的な評価結果

評価	理 由
A	各評価項目において一定以上の成果が見られた。とうきょうすくわくプログラムでは「自然環境」「生き物」「食文化」の3テーマで体験型の探究活動を展開し、子どもたちの好奇心や思いやりの心を育む機会となった。環境整備・安全管理・保護者対応についても保護者アンケートで高い肯定評価を得た。一方、教育方針の理解浸透や保護者・地域との連携については「あまりあてはまらない」との回答も一定数あり、引き続き周知・連携強化に取り組む必要がある。次年度はこれらの課題を踏まえ、さらに質の高い保育・教育の実現を目指す。

6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育の質と保育力の向上	すくわくプログラムの継続・発展（新テーマの設定）、園内外研修の充実、外部専門講師（英語・体育）の継続活用
2	環境の整備及び安全確保	園舎・遊具等の日々の点検とメンテナンスの継続、避難訓練・不審者対応訓練の実施、感染症・アレルギー対応の徹底
3	保護者・地域との連携	保護者向け教育方針説明の機会の充実、小学校・地域との連携強化、保護者アンケート結果の保育改善への反映

7 学校関係者評価委員会の評価

自然環境・生き物・食文化と多彩なテーマで探究活動を積極的に展開し、子どもたちに豊かな体験の機会を提供している点は高く評価できる。保護者アンケートでも園生活への満足度や保育者への信頼感が全体的に高く、教職員の日々の取り組みが保護者に届いていることがうかがえる。一方、教育方針の理解や保護者・地域との連携については改善の余地があり、説明機会の充実や情報発信の工夫を期待したい。次年度もすくわくプログラムをはじめとする探究活動をさらに発展させ、課題解決に向けた取り組みを継続されることを願う。